

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市在宅医療・介護連携推進会議 第5回連携体制等に関する部会		
事務局 (担当課)		地域包括ケア推進課 電話042-769-9250(直通) 医療政策課 電話042-769-9230(直通)		
開催日時		令和2年6月30日(火)～7月14日(火)		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)		
	事務局			
	その他			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数
公開不可・一部不可の場合は、その理由	書面会議のため			
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 地域ケアサポート医によるアウトリーチ(訪問支援)の手引き(案)について (2) 在宅療養パンフレット「はじめての一步」について(報告) (3) 市在宅医療・介護連携市民講演会について(報告) (4) 在宅医療・介護連携支援センターの設置について(報告) (5) 在宅療養連携ケース(支え手帳)のモデル事業継続について(報告) (6) 新型コロナウイルスに関連する在宅医療・介護連携における課題について (7) その他 ・九都県市首脳会議の取組状況について 3 閉 会			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の意見、 は事務局の回答)

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により部会委員の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

2 議 題

(1) 地域ケアサポート医によるアウトリーチ (訪問支援) の手引き (案) について

医療介入が難しい事例に対して、大きな助けになると思う。認知症の初期や本人の急激な変化時等家族が一番疲弊するときに、的確な医師の助言は崩壊を防ぐセーフティネットになるのではないのでしょうか。ニーズは高いと思う。

- 実際に訪問に行くには、時間がかかる。今後、この制度を発展させていくなれば、地域ケアサポート医を地域のかかりつけ医が担っていくべきだと思う。

今後、地域ケアサポート医の担い手を増やしていけるよう働きかける。

- 相談者が直接連携支援センターに相談した方が、何に困っているか、どのようなサポートを必要としているかをサポート医に伝えやすいと思うが、相談者と連携支援センターとの間に各高齢・障害者相談課を挟まなくてはいけない理由は何か。依頼書を提出して、それを元に直接センターが聞き取りをするのではだめなのか。また、相談開始から、アウトリーチ開始まで大体どのくらいの時間を想定しているか。

ケースの把握及びフォローアップのために各高齢・障害者相談課が入っているが、運用しながら課題に対して修正していく。また、緊急性や個々の状況などを考慮して、速やかに対応するよう努める。

- このような仕組みはケアマネにとっても有用なものだと思う。ただ一方で手続きが煩雑になりすぎると、それが制度の活用ブレーキをかけてしまう恐れがある。そのあたりは運用しながら検証してほしい。

(2) 在宅療養パンフレット「はじめの一步」について (報告)

- 今はコロナで開催できないが、訪問看護師に「市民講座」として地域の方への勉強会の講演依頼がある。その際活用したいが、分けていただくことは可能か。

在宅医療・介護連携支援センターで準備する。ぜひ御活用いただきたい。

(3) 市在宅医療・介護連携市民講演会について (報告)

- 来年以降も開催できると良いと思う。

(4) 在宅医療・介護連携支援センターの設置について(報告)

センターの開設、運用方法(活用方法)をどうしたら医療・介護従事者に認知してもらえるか広報方法の検討が必要だと思う。設置の宣伝はどのようにするか。また誰に向けてどのようにお知らせする予定なのか。

医療・介護従事者を対象の中心にして、HP、チラシなどを用いて周知していく。

- 退院調整のルールの検討について、最近では退院前からの連携だけでなく、「退院支援は入院したときから始まる」と言われ、「入退院連携」という言葉がよく使われる。実際には、入院時の連携にはまだまだ課題が多いが、その方向に向かっていることは間違いない。

(5) 在宅療養連携ケース(支え手帳)のモデル事業継続について(報告)

- 大野中地区の居宅のケアマネに聞いたところ、利用者宅に訪問するたびに心掛けて手帳に記入していたということであった。「手帳が有用となる対象」にもあるように、本人を支援する人が活用できるものなので、更に医療、介護従事者に周知を図ることが必要である。
- 本人が忘れていたり、使用していないケースが散見されている。利用者本人が常に持ち歩く必要性よりも、利用者に関わる周囲の人が必要とする情報であることから、本人管理の書類というよりも、クラウドツールなどを用いて、関連職種が常に情報の変化を見られる方が有用ではないか。

モデル事業の結果を検証しながら、今後の展開について検討していく。

- この手帳は、必要性の高い方にはとても有効だが、そうでない方にとっては面倒なだけである。これだけの手間をかけてもなお必要かという必要性の濃淡が使うかどうかの判断に影響すると思うので、そのあたりの見極めの周知が必要であると思う。
- 対象者によってカスタマイズできると良い。簡単に記入できるもの。デイサービスの連絡帳、支え手帳など1人の人に対していくつもがあると家族も支援者も大変である。まとまった形で利用できると良いのではないか。
- アンケートの結果に対する考察が知りたい。結果の分析と考察がないと、次のモデル事業に生かせないと思う。

より多くの皆様からの御意見を反映するために、大野中地区と同じ内容で緑区内のモデル事業を実施した後に考察して、今後の展開を検討していく。

(6) 新型コロナウイルスに関連する在宅医療・介護連携における課題について

- 介護、福祉事業者には、新型コロナ感染症の市内の情報医療機関ほど伝わってこない現状があると思う。高齢者を守らなければならないと、より制限を厳しくした施設もあるかと思う。
- 連携でうまくいった事例などを、事例検討会(オンライン等)を行い、各職種で共有してみてはどうか。現場で介護・診療に携わる従事者の安全は市民の生活に必要な

ものであり、救急関係者同様に、安全確保のための防護具の十分な確保が必要ではないか。

市役所においてもICTの導入を進めており、各種研修がオンラインで実施できないかを含めて検討していく。また、新型コロナウイルス感染症に対する対応では、医療資機材の不足は深刻な状況であり、市としても緊急的な対応を行ってきたところである。また、介護事業者を含めた感染症に対する正しい知識の習得等も課題と認識している。今後も、関係者の皆様の御意見を伺いながら様々な対応を進めていきたいと考えている。

- 今回の緊急事態宣言下での医療・介護連携の困難さが良く伝わった。前例のない状況下で第2波に備えて解決策の模索が必要だと感じる。
- 認知症の利用者が、TVニュースでコロナ過敏になり、不安のあまり救急車要請してしまうケースあり、本当に申し訳なく思う。訪問時にいろいろ指導し、紙に書いてアピールするが、すぐ忘れてしまうので、難しく、TVを見るなとも言えないので悩んでいる。
- 医療者、介護事業者共に戸惑い、苦労していることがわかる。介護事業者にとっては、感染予防に関する知識や防護具が少ない中で恐怖心とも闘いながらサービス提供をしていることと思う。このような時こそ連携して、知恵をだしあっていかなければと思う。
- 正直とても参考になった。この間に何が起こっていたかの情報収集とその考察や総括は、今後のためにも絶対に必要だと思う。
- 「Withコロナ」で、1年以上は継続しなければいけない状況となるだろう。感染拡大予防をしながら市民の医療・介護連携（情報共有）ができる方法をつくっていく必要がある。

(7) その他

・九都県市首脳会議の取組状況について
特になし。

3 閉会

以 上

(別紙)

令和2年度 相模原市在宅医療・介護連携推進会議
連携体制等に関する部会 委員名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
	井出 道也	一般社団法人相模原市医師会	会長	出席
	金子 智代美	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	副会長	出席

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会		出席
2	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		出席
3	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
4	澤田 弘之	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
5	渡辺 加代子	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		出席
6	比留間 由美子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
7	伊勢田 明子	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
8	臼井 意	さがみはら介護支援専門員の会	職務代理	出席
9	大塚 小百合	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
10	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会		出席
11	矢口 君代	高齢者支援センター（地域包括支援センター）		出席
12	佐藤 聡一郎	一般社団法人相模原市医師会	部会長	出席
13	荒川 雅子	一般社団法人相模原市医師会 （訪問看護ステーション）		出席